



対応すべきか、対応せざるべきか

経営側が嘘だらけの「事実を記したメモ」を掲示した場合、どのように対応すべきでしょうか。ついすべての点に対して綿密に反論したくなりますが、その迷宮に入っていく前に、立ち止まって考えるべきでしょう。

対応すべきでないとき

こんな理由だけで経営側のメッセージに対応してはいけません。

- ・腹立たしいから
- ・嘘だから

なぜ対応してはいけないのか。

- ・経営側は労働者の注意をそらし、混乱させようとしています。
- ・もしそれがうまくいけば、経営側は策略を続け、組合が嘘をつぶしていくそばからさらに多くの嘘をばらまくでしょう。
- ・守勢に回ってしまうと負けなのです。少なくともその瞬間は。

代わりにやるべきことは。

書面で応答することで、攻撃に権威を与えることは避けましょう。労働者たちは経営側の話に真面目に取り合うべきか判断するため、あなたの反応を見ているかもしれません。焦点を当てたいのはあなたが提起した課題の方で、経営側の攻撃ではありません。

対応すべきとき

こんなときは対応しましょう。

- ・経営側のメッセージに注目が集まっているとき。つまりあなたにとって大事な人たちが経営側のメッセージを話題にしているとき
- ・経営側のメッセージのせいで、あなたのメッセージが労働者に届かなくなっているとき

なぜ対応すべきなのか。

基本的には、対応しなければならないときに対応しましょう。経営側が話をそらすことに成功しているときは、——つまり労働者たちがあなたのメッセージに耳を傾けず、労働組合の行動に参加しなくなっているとき——そのようなときは、同僚たちを元の状態に戻すため、ビラや経営側が言っていることに応答すべきかもしれません。

なにをすべきか。

目的は火消しをして、こちらが提起している問題に焦点を戻すことです。ビラの応酬では、キャンペーンを勝利できないことを忘れてはなりません。キャンペーンの勝利は、これまで築いてきたコミュニケーションのネットワークを通じた一対一の対話によって得られるのです。経営側は金銭的・人的資源であなたとのビラの応酬に勝つことはできますが、信頼を勝ち取った職場のリーダーはあなたたちです。